

発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第8回

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。今回も前回に引き続き「城之堀地区」からのレポートです。

そら ふ どう 「空不動の湧き水」～城之堀から～

今回の工工と発見の同伴は、「文
化財のしおり」と愛犬。さあ、「空
不動」を目指して出発!

北部農道を筆の里工房からさらに東へ約1km行くと、道路右手に「堀之城跡」という遺跡を紹介する看板が見えてくる。ここは、城山の南麓。字は堀之城。そこから城山側に、大きな一本杉が目印の「不動堂」がある。これから向かう「空不動」が「奥不動」と呼ばれるのに対して、こちらは「出不動」とも呼ばれるそう。なるほど、この2地点はセットのようである。先人達もまずココで山登りの無事を祈ったのであろうか。目指す「空不動」は、ここから約500mばかり登った所にあるという。

今の時期は梅雨ということもあって、山肌は湿っており、道中、青々としたシダ群が辺の静寂をなおさら深めているようだ。聞こえるのは、鳥の鳴き声と水流の音。前方から聞こえてくる水流の音に誘われるようにしばらく登って行くと、途端に山が開けて明るくなってきた。わあ、大きな石! 450トンはあるうかと思われる苔むした巨石が、いきなり姿を現した。その巨石の下、洞窟には、不動さんが祭られている。よく見ればその不動さん、お腹が大きいのである。



お腹の大きな不動さま

洞窟の奥からは勢いよく水が流れ出している。湧き水だ! 飲んでみると、とてもおいしい! 冷たいうえに不思議とやさしい味がする。「空不動」の湧き水は、霊水として古来より珍重されており、また、ミネラル分が多くて腐りにくいといわれる名水でもあるそう。いわゆる霊水とは、不思議な働きをもつ水のこと。そう言えば、この不動さんはお乳の仏様と聞いている。昔は、今の時代のように粉ミルクなど存在しなかったため、赤ちゃんが生まれたらお乳がよく出るようにと、ココにお水を汲みに来られる方も多かったのだらうと、辺りの隣とした空気に包まれながら、しばし時代をトリップして古代に思いを馳せてみた。見れば、霊水は汲みやすいように奥からパイプが這わせてあり、どなたかのご好意により柄杓も用意されている。ありがたい。山深いココにも、この場



溢れ出す湧き水

所をお守りくださる地域の人がいらっしゃるようである。ここにもまた熊野の工工と発見!

古来より人の息づく場所があつて、それを大切に守る人がいる。こういった場所を訪れると、熊野の自然の豊かさはもちろん、なにより当時の人々の託した思いを私達に垣間見せてくださいます。さて、今の時代、これから赤ちゃんが生まれたら、その子に免疫力をつけさせるためにも母乳で育てたいと思われ方も多いのでは? そんな家族に「空不動」の湧き水はいかがでしょうか。きっと親の思いに伴い、先人達が託した思いが垣間見れるかもしれませんね。

取材 伊藤真由美